

## 「茨木のり子 2024 冬／平和のための言の実」の会 を沖縄で行う意義について

「平和のための言の実」の会 実行委員会

代表 佐藤建吉

「茨木のり子 2024 冬／平和のための言の実」の会という行事を、2024 年 12 月 21 日に沖縄県平和祈念資料館で行うことにしてありますが、茨木のり子の行事を沖縄で行う意義について簡単に記します。

### 1 キーワード

「茨木のり子」 「2024 冬」 「平和」 「言の実」  
ここに掲げたキーワードの順に解説したいと思います。

### 2 茨木のり子

「平和のための言の実」の会の実行委員会を組織する代表の佐藤建吉は、詩人・茨木のり子とその詩作&詩情を日本に広めるための活動を、2019 年から継続して行っています。その活動は、朗読会と音楽会などの行事として、1 年に数回ずつ行っているのです。これまで 10 回を数えています。

茨木のり子は、しばしば「現代詩の長女」として紹介されますが、これは詩人・新川和江によってはじめて呼称されました。その意味は従来の定型詩の枠を外して、詩人である自身の意思を、読者へそして社会へと向けて詩作したものと解釈できます。それが現代詩というジャンルを先駆的に導いた女流詩人との評価でしょう。

こうして茨木のり子の詩趣は、日常の暮らし、そして社会の出来事、そして理想や夢などを対象として、素直に付度せず、しかし巧みな修辞により美しく表現されています。それは、清冽という言葉が冠せられることがあり、純粋で清澄であり、多くの読者に感動を与えています。筆者も、その虜になった一人であります。

その詩趣や詩情には、作者・茨木のり子の自己の体験と天性の才能が、裏打ちされているといえるでしょう。この面では、前述したように、茨木のり子は 1926 年生まれ、郷里（現、愛知県西尾市）での高等女学校の時代は戦時中で、軍事教練で全校生徒に号令する軍国少女の役割も演じたのです。終戦直前の 1945 年は 19 歳、東京の薬学専門学校（現、東邦大学薬学部）では学徒動員も経験、かつ 4 月 15 日の東京空襲では同校舎と寄宿舎も破壊、帰郷先では防空壕への避難も体験しました。

こうした体験で、茨木のり子は、全部で 400 以上の詩を書き、10 の詩集を残しています。その第 1 詩集『対話』のなかで、同名の詩「対話」には、自身が詩人として生きる決意を、対話する習性と表現しています。これは、



茨木のり子

(イラスト by 山本誠)

### 茨木のり子

生年 1926.6.12～没年  
2006.2.17

### 新川和江

生年 1929.4.22～没年  
2024.8.10

### 詩趣

文字の通りであるが、  
詩作に込められた詩  
情&趣き

### 薬学専門学校

正式名は、帝国女子医  
学薬学理学専門学校



『対話』の表紙

茨木のり子の、詩趣と詩情を明確に表しています。

「対話」は、高校の教科書にも取り上げられ、戦争の局面や世相を討論し教育に活かす題材にもなっております。茨木のり子の詩作には、以下のような題名のものがあり、多くのひとに感動を与えています。

「わたしが一番きれいだったとき」「倚りかからず」「自分の感受性くらい」「六月」「根府川の海」「怒るときと許すとき」・・・など 414 作

茨木のり子の詩作は、時代区分として、以下の三つに区分されます。

- (1) 0歳～23歳・・・未婚時代
- (2) 23歳～48歳・・・結婚時代
- (3) 48歳～79歳・・・寡婦時代

これは、女性の生き方におけるの分け方ともいえ、24年（二周り）近くが一時代となっている。彼女は、子育てを経験していないが、観察者としての女性の生き方を、多くの詩に残していたのでした。その視点が。前述のように凛として、感銘と感動を与えています。

### 3 2024 冬

今年 2024 年は、茨木のり子のイベントを、春夏秋冬と 4 回開催することにした。

春 (2.15)・・・茨木のり子の命日で、東京都目黒区で開催。

「茨木のり子の世界」命日にちなみ「詩情遺韻」として、榎木孝明・高谷秀司・桜子をメインキャストとして実施。(右図上参照)

夏 (6.15)・・・茨木のり子の誕生日 6 月 12 日に合わせ、「千葉県民の日」6 月 15 日に千葉県松戸市で開催。「茨木のり子の詩情世界」として朗読家、オペラ歌手、雅楽師、市民コーラスグループが表現。(右図参照)

秋 (9.21)・・・秋として 9 月に、神奈川県鎌倉市で開催。

文学の街／鎌倉にて小泉八雲の話題も取り入れ「茨木のり子の詩情世界」を、講演と朗読、弾き語り、新たに舞踏を入れて演出。(右図参照)

冬 (12.21)・・・今回の行事で、平和を祈念するため、沖縄から発信するために開催。「茨木のり子 2024 冬／平和のための言の実」の会として実施。(右図下参照)

### 4 平和

平和について考えたいと思います。平和という言葉もあります。平和は穏やかな暮らしを意味し、平和はその状態にすることを意味すると言えます。



### 2024 春チラシ



### 2024 夏チラシ



### 2024 夏チラシ



### 2024 冬チラシ

日本の元号には、「平」と「和」がよく用いられています。最近でも「令和」「平成」「昭和」と続いて用いられています。最初の元号「大化」以降で、この二文字が用いられた元号は、「平」が10回、「和」が20回でした。「和」には、“なご(む)”や、“やわ(らぐ)”の意味があります。

英語では、peace(ピース)ですが、たばこの銘柄にも用いられています。そのケースにあるシンボルマークの「オリーブの葉をくわえた鳩」は、平和の象徴で、しばしば用いられます。たばこでは、高貴な金色としてあしらわれています。(右図参照)

平和を求める言葉は、プラトンもマザー・テレサも語っています。

宇宙の大愛に生まれし地球／新しき夜明け 世界五大州の夜明け／海はすべての生命の故郷なり／国々の文明・文化交流の海路／豊饒の大地は 美しき緑ひろがりて／英知と情熱の 働く力は高まりぬ／鳩は喜びに 清き心の羽根ひろげ／万物の母の使いか 善美の女神なり／優しさと 純なる魂の導きか／真理と知恵の翼は羽ばたけり／“愛は努力である”とプラトンは言う／マザー・テレサは“Love is Action” と／愛と思いやりの宝座は 人間生命の奥底に／心より出ず 願いし使命は 世界の平和

「平和」を求める気持ちは「愛」に他ならなりません。

## 5 言の実

「言の実」とは、筆者が考えた新しい言葉に他ならなりません。それは、facebookのグループ名『茨木のり子「言の実」の会』としては、すでに使っています。そこでの説明を、以下にします。

「言の葉」は言葉のことですが、茨木のり子が遺した詩や随筆など、言葉でのメッセージを、「葉」から「実」として、私たちの身体や頭に、意識として気持ちとして魂として取り込むことをひろめたい。ゆえに、「言の実」という言葉を創った。言実でもいい。

これらは、やがて、根となり、芽を出し、茎に成長し、葉を広げ、光と空気を得て、花をつけ、そして再び実を結ぶだろう。

茨木のり子の「言の葉」は、これらの循環により、時を経て、我が国に、隣国に、そして世界に広がることを期待したい。

茨木のり子「言の実」の会、始まりはじまり。

この説明のように、「言の実」は、言葉として表現したことが、現実に成果として活かされるようにとの思いから、「言の葉」すなわち「言葉」を、葉よりも実として、すなわち「言の実」としました。つまり、成果が循環して、芽吹いて花や実となり、確かに「結実する」ようにとの願いを込めて、名付けた新しいことばです。それは、「言の実」すなわち「言実(ことみ)」と呼びたいとおもいます。茨木のり子の代表的な作品は『茨木のり子集 言の葉』(全3集)に収録されています。



たばこ Peace



愛と平和のシンボル  
図 (デザイン by  
一色宏)



言の葉のシンボル図



言の実のシンボル図

## 6 沖縄で茨木のり子を取り上げる意義について

以上を前提として、茨木のり子の行事を沖縄で行う意義についてまとめたいと思います。

□ 茨木のり子は、自身が戦時を体験したことから学びと自省、また戦後のアメリカ支配をその後のベトナム戦争での結末をみて、戦争への批判と考察に言及した詩を書いています。

□ 1996年、茨木のり子が70歳になった時、『二十歳のころ』の取材を受け、詩人としての人生で得た思いを語っています。要約すると、

- (1) 戦時中には意識操作／マインドコントロールされて、自分で考えることが出来なくなる、そして
- (2) 死んでもいいという空気感がつくられてしまったが、
- (3) 戦後は、金子光晴と山本安栄に出会い、共感し、
- (4) 自分の感受性くらい自分で守れという発想が生まれたこと、
- (5) この戦争は、日本が東洋にした侵略をアメリカが日本を侵略したと同じで、結局は、
- (6) 沖縄だけを犠牲にして戦争を止めたことにあたる。
- (7) 自身が二十歳のころは、一番きれいだったときであり、
- (8) 二十歳が一番もやもやして不透明で、一番苦しい時期でもある。だから、
- (9) 平和が欲しく、ひとを愛し、かつ愛されたいと感じる。

沖縄の人が感じていることを、茨木のり子も思い言葉にしていました。

□ ゆいレールのおもろまち駅は、沖縄の悲しい歴史から学び、未来永劫平和に暮らしたいという、県民の切なる思いが込められた地名として公募されたものでした。沖縄出身の比嘉実（元・法政大学沖縄研究所所長）と茨木のり子の出会いは、「おもろそうし」でした。「おもろ」とは沖縄方言で「おもい」であり、「そうし」は「草子」です。

比嘉は、茨木のり子の詩を知り「地球・生命・沖縄を考える―茨木のり子著『倚りかからず』を読む」を纏めました。茨木のり子は、比嘉の早稲田大学の授業に出席して学んでいました。

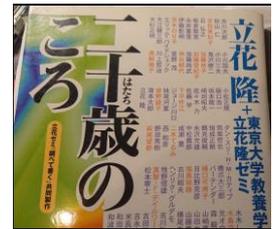
□ 茨木のり子は、軍国少女との視点でみると、ひめゆり学徒隊よりも3歳年上。茨木のり子は「はたちが敗戦」を書いています。

□ 沖縄出身の詩人・山之内獏に、茨木のり子は大いなる関心を持ち、『うたの心に生きた人々』を纏め、獏を取り上げて詩文を紹介しています。本人同士は会ったことないのですが、茨木は獏の家族とは取材を通じて親しくなり、娘の山之内泉は茨木の死後に、「茨木さんのこと」を寄稿しています。

□ 茨木のり子は、「疎開児童も」という詩を書き、苦勞なしで自由に育った子や孫の世代についての風刺を与えています。沖縄では対馬丸の沈没の悲劇がありました。茨木が叱責した子や孫の世代とともに、戦争の事実と戦争がつくる悲劇について、いま、その事実を知らねばなりません。平和の意味を知るには沖縄は、つらい場面が多い。だからこそ、茨木のり子は、『対話』の必要性を言葉で残したのです。その言葉を、言実(ことみ)にして芽吹かせ、明日に繋げなければならないと思います。ここに、今回の行事の意義があります。

## 『二十歳のころ』

立花隆の企画による東京大学教養学部との学生たちとの共同著作。茨木のり子ほか68名の人にインタビューしてまとめている。



## 「おもろそうし」

琉球王国尚清王（第二尚氏第4代）時代の嘉靖10年（1531年）から尚豊王代の天啓3年（1623年）にかけて首里王府によって編纂された歌集。

## はたちが敗戦

『茨木のり子集 言の葉1』『少女たちの戦争』に収録。

## 山之口獏

1903年9月11日に沖縄県那覇市泉崎生まれ。旧制沖縄県立第一中学校入学、退学して上京。ルンペン詩人などと言われた。1963年没。千葉県松戸市の八柱霊園が墓所。